



高石市  
Takaishi City

# グラフ たかいし 2010

みんなで創る安心のまち





2	1
3	
5	4

- ① 川淵三郎名誉市民と母校の子どもたち
- ② 高石市民体育大会
- ③ 小学校の校庭芝生化事業
- ④ 自主防災組織の消火訓練
- ⑤ 高石だんじり祭り

P 13	P 11	P 10	P 7	P 5	P 3	P 2	目次
高石の年表	高石市の基本情報	高石のあゆみ④ 未来に向かって	高石のあゆみ③ 安全・安心のまちづくり	高石のあゆみ② 財政健全化への取り組み	高石のあゆみ① 古代〜現代	位置(地勢)	

# 私たちのまち

# 高石

明治17年、高石南村、高石北村、今在家村と新村の4か村で第9戸長役場を設置。ここに初めて現在の高石市の基礎が確立され、同22年4月の町村制度で、高石村（人口3,307人、世帯610）として地方自治の第一歩を歩きました。明治34年に葛の葉駅（現高石駅）、同45年には羽衣駅が開設し、風光明媚な白砂青松の海浜を背景に、良好な住宅地としての面目を備え、村勢はめざましく進展し、大正4年1月には町制（人口4,809人、世帯数935）を施行。

昭和28年4月に、東部に隣接する旧取石村を編入合併して、人口26,925人、世帯数5,985、6・19平方キロメートルの町域を有するようになり、その後、臨海工業用地の造成や都市化による人口の急増などにより著しい発展をとげ、昭和41年11月1日に高石市（人口47,650人、世帯数12,325、市域8・99平方キロメートル）として発足しました。

現在の市域は海面埋立（昭和52年）の面積を入れて11・35平方キロメートル。人口60,389人、世帯数24,534（平成22年3月末現在）です。

## 位置 (地勢)



高石市は、大阪府南部に位置し、北と東は堺市、南は和泉市及び泉大津市にそれぞれ隣接し、西は大阪湾に面しています。

地形は、全体的に平坦で、東西6・1キロメートル、南北4・1キロメートル、面積11・35平方キロメートルであり、約4割は臨海部の埋立地で工業地帯として利用されています。

内陸部は良好な住宅地帯となっており、南海本線、JR阪和線などの鉄道と国道26号、阪神高速湾岸線などの道路で周辺市町と結ばれ、大阪市中心部と関西国際空港のいずれにも約20分で到達できます。

## 百人一首にも詠われている 白砂青松の地

大阪湾に臨む和泉国の海浜は、古代以来、いたるところに白砂青松が連なり、美しい景観が展開していました。中でも、高師の浜は名勝地であり、多くの和歌に詠み込まれています。

そのうちのひとつとして、康和4年(1102)に堀河天皇の主催で行われた歌会において、当時の中心的な女流歌人の一人であった祐子内親王家女房(女官)紀伊が詠った次のような和歌が有名です。

音に聞く高師浜のあだ波は  
かけじや袖の濡れもこそすれ

また、持統3年(689)の記録に大鳥郡高脚海が禁漁区であったと記されており、皇室の漁場として鮮魚を献上していたという記録もあるなど、古代からその美しい海浜が知られていました。



古代から美しい景観を誇った高師の浜

## 明治期にはロシア兵の 俘虜収容所が設置 大正期には 東洋一の海水浴場として発展

明治37年(1904)に起きた日露戦争により、高石市と泉大津市の海浜一体に約2万8千人を収容した国内最大級の施設「濱寺口シヤ人俘虜収容所」が設置されました。

大正4年(1915)には人口4,809人をもって町制に移行。大正から昭和初期にかけて、浜寺・高師浜海水浴場は東洋一の海水浴場、一大リゾート地として、年間約百万人の観光客で賑わいました。あわせて大阪中心部からの鉄道も整備され、内陸6平方キロメートルに6つの駅ができ、洋館建ての別荘や保養所、高級住宅地としての開発が進みました。



海水浴場として賑わった高師の浜



濱寺口シヤ人俘虜収容所

# 古代～現代

## 臨海コンビナートの形成と ベッドタウン化による人口の増加

昭和初期から戦後の泉州地域は、綿花栽培や紡績、綿、毛織物業が発達しましたが、時代の流れによって繊維産業の勢いも失われていきました。昭和30年代後半には臨海部の埋め立てにより、内陸部6平方キロメートルに匹敵する5平方キロメートルが新たに市域となり、石油化学コンビナートが形成され、ほぼ現在の市域となりました。

また、大阪中心部への鉄道によるアクセスの良さから都市化が進み、ベッドタウンとして人口が急増し、昭和30年代後半には4万人にまで達し、昭和41年（1966）に市制に移行しました。その後、臨海部の企業の社宅などが建設されたこともあって人口の急増はとまらず、昭和56年（1981）には6万7千人のピークを迎えました。



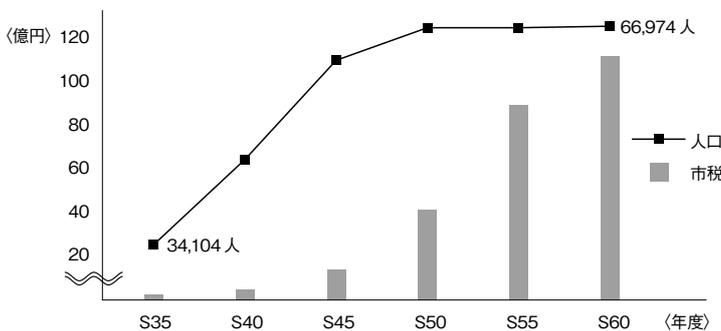
## 健全財政と 都市基盤の整備

昭和40年代、高度成長期を背景に、臨海部に大手企業が次々と進出してきたこともあり、市税収入が飛躍的な伸びを示しました。また、急速な都市化による道路・上下水道・公園などの都市基盤整備や、学校・幼稚園・保育所などの行政需要に対応するため、歳出も増え続けました。その結果、昭和30年（1955）以前の1中学校4小学校が、3中学校7小学校になり、7小学校区に7つの公立幼稚園・公民館、6つの公立保育所、3つの老人福祉センターなど、多くの公共施設が整備されました。

一方、財政の強さを示す財政力指数<sup>※1</sup>は、昭和62年度（1987）に1.339まで伸び、長年にわたり地方交付税の不交付団体となっていました。

※1：普通交付税上の基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値

人口と市税



# 財政健全化への取り組み

## 急速な市税収入の減少と財政悪化

本市は、市域の約半分を占める臨海工業地帯からの税収等により、ピーク時（平成8年度）には、標準財政規模を上回る約153億円もの市税収入がありました。

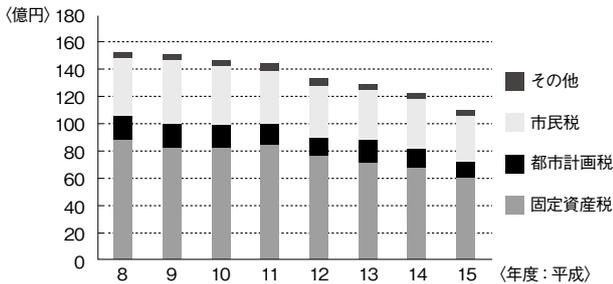
しかし、バブル経済崩壊後の景気低迷や地価の下落、地方税制の改正等の影響を受け、平成15年度には市税収入がピーク時の3分の2程度に落ち込みました。

一方、平成9年度以降、それまでの行政課題であった駅前再開発などの大規模なプロジェクトを推し進めたことにより、それまで潤沢にあった基金は減少し、起債残高は急速に膨らみました。

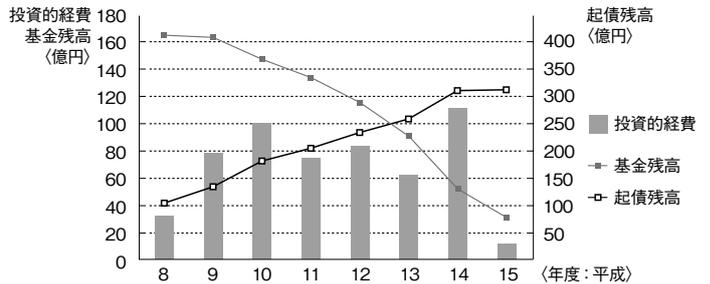
また、職員の人件費、大型施設の建設等に伴う公債費、少子高齢化社会等に伴う扶助費など義務的経費の増加などにより、平成15年度には経常収支比率<sup>※2</sup>が109.7となり、一気に赤字再建団体への転落の危機に直面しました。

※2：歳出のうち人件費、公債費等の経常的な経費に、市税、地方交付税等を中心とする経常的な一般財源収入が充当されている割合。比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表す。

市税の内訳



投資的経費と基金残高・起債残高



市との合併を問う住民投票が行われ、「合併せずに自主存続」を市民が選択しました。

これにより、高石市の進むべき道は財政を健全化し「自立再生」をめざすことになりました。

## 「自立再生」への道を市民が選択

この頃、全国各地で市町村の合併問題が巻き起こっていました。本市においても、平成14年（2002）4月に隣接する堺市との間で合併問題研究協議会を設立しました。市民サービスの維持・向上、将来のまちの発展を念頭にし、合併問題も一つの選択肢として捉え、調査・研究を行っていました。

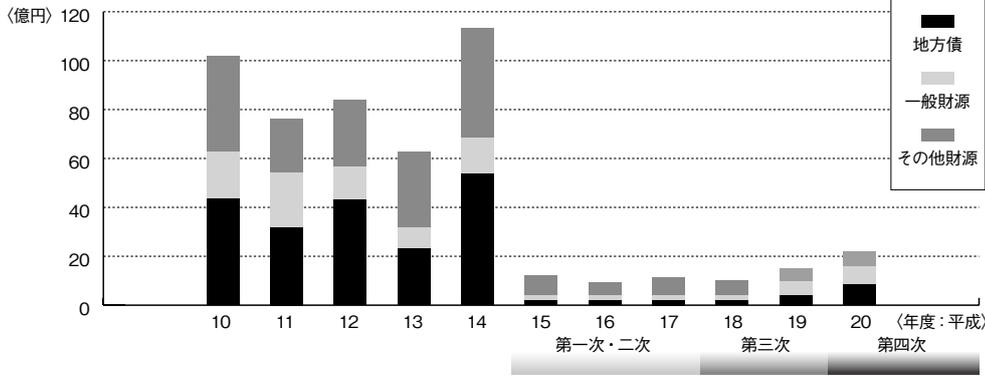
そうした中、平成15年（2003）4月27日、堺



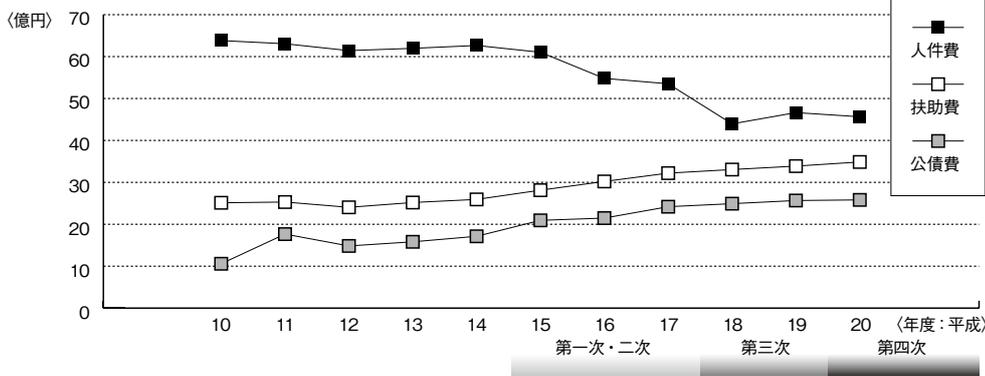
市民参加の行財政改革をめざして行われた、市民タウンミーティング

# 財政健全化への取り組み

## 投資的経費の推移



## 義務的経費の推移



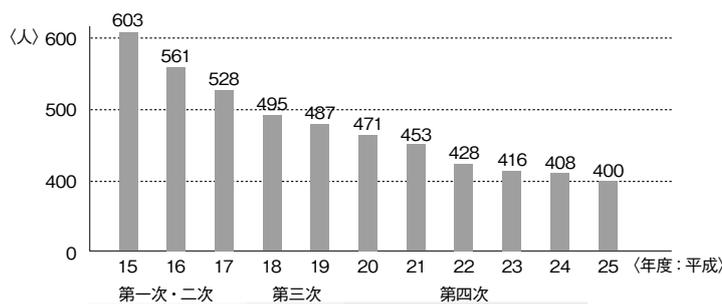
## 第四次財政健全化計画案 (平成20年度から平成24年度の5年間)

### 財政健全化の目標

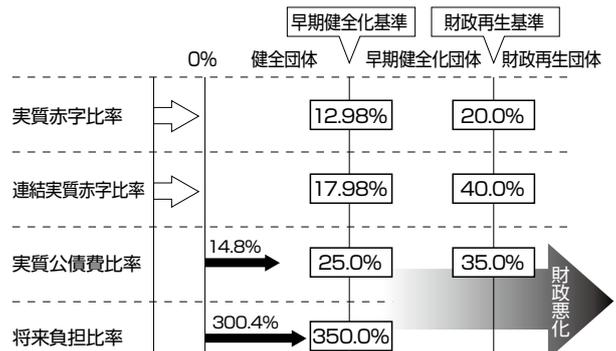
- 財政健全化法の指標を基準値以内に収める。
- 土地開発公社の保有高を25%以上削減し健全化を図る。
- 職員の退職が平準化した後に、経常的な歳出を経常的な歳入でまかなえる財政構造へ転換する。



### 職員数の推移と目標値 (各年度4月1日現在：平成22年度以降は目標値)



### 健全化判断比率 暫定率 (平成20年度決算)



## 高石市の自立再生に向け、 財政健全化を推進！

高石市の自立再生をめざし、すべての事務をゼロベースで見直す、第一次の財政健全化計画案を平成15年(2003)12月に策定し、現在、第四次の財政健全化計画案に基づき、財政健全化(行政財政改革)に取り組んでいます。

# 安全・安心のまちづくり

## たかいしスクール・ニューディール

「学校教育施設耐震化率全国ワースト1から  
耐震化率100%の達成と教育環境の充実」

本市においては、高度成長期の人口急増により学校教育施設のほとんど（92・7%）が新耐震基準以前の昭和56年までに建設されたことから、耐震化が急がれていました。このため、学校教育施設の耐震化を市の最重要課題として位置づけ、平成18年度から耐震化計画に基づき着実に取り組んできました。

こうした取り組みを進める中、平成21年、国による支援策を最大限に活用した「たかいしスクール・ニューディール」を策定し、平成22年度中には、すべての小・中学校の耐震化が完了する予定です。

また、耐震化と同時に全面的な改修工事を実施し、学校施設の安全・安心を確保するとともに、各学校に太陽光発電等の自然エネルギーの利用をはじめとしたエコ改修を実施することで、CO<sub>2</sub>削減による環境負荷の低減と環境教育の教材としての活用を行います。さらに、学校教育の情報化の観点から、校内LANの整備、児童・生徒・教員用パソコン、電子黒板、地上デジタルテレビの導入など学校教育のICT化も行います。



### たかいしスクール・ニューディールの **4つ** の柱

**強く**

**耐震補強工事**

- ・児童生徒の安全確保
- ・非常災害時の防災拠点の確保

**きれい**

**全面的な改修工事**

- ・内外装工事により安全・安心で快適な施設環境の確保

**新しく**

**校内LAN工事／地デジ・PC等の整備**

- ・情報活用能力の向上、児童生徒等用PCや電子黒板等の整備、新学習指導要領完全実施へ向けた教材整備など

**エコ**

**太陽光パネルの設置**

- ・CO<sub>2</sub>の削減効果
- ・電気代2割程度の削減
- ・非常用電源としての活用

**最先端の教育環境の整備**

**耐震化率100%を一気に達成**



ぼくの…わたしの…  
学校が生まれ変わる!

# 安全・安心のまちづくり

## 幼児教育・子育て支援の充実 ～公民の役割分担～

少子高齢化が進展するなか、本市では、待機児童の解消や子育て支援の充実をはかるため、平成14年以降、2つの公立保育所を民営化しました。さらに現在、老朽化した園舎を新しく建て替え、幼稚園・保育所の両方の機能を備えた認定こども園を整備し、預かり保育・延長保育など幼児教育・保育を一体的に提供するため、平成23年（2011）4月の開園をめざし取り組んでいます。

また、公立と民間でそれぞれ役割分担を行いながら、地域子育て支援や障がい児保育を行うなど、拡大する多様な保育ニーズに対応します。



一部供用が開始された区間では、アダプト・プログラムによる美化活動も行われています

## 都市計画道路 「南海中央線」の整備 ～安全・安心な道路づくり～

都市計画道路南海中央線は、本市を南北に横断する都市計画道路で、子どもたちや高齢者の安全確保ばかりでなく、災害時の重要な街路網となります。

現在、未整備の一部区間において、「完了期間宣言」（完了予定年度平成25年度）を行い、国の重点支援を受けつつ、安全・安心な道路づくりを進めています。

# 安全・安心のまちづくり

## 南海本線・高師浜線 連続立体交差事業の推進

交通遮断の解消と駅周辺の活性化

高石市内を南北に走る南海本線は、大阪市と和歌山市を結ぶ鉄道で、地域住民の日常生活をはじめ泉州地域の発展に大きく寄与している主要な交通機関です。

しかし、近年の交通量の増加と列車本数の増便による踏切部の交通渋滞が発生し、その解消策として南海本線と高師浜線を高架化する連続立体交差事業に取り組んでいます。これが完成すれば13箇所踏切が無くなり、道路交通の円滑化を図れます。あわせて鉄道により分断されていた市街地の一体化が図れ、安全で快適なまちづくりの推進に多大な効果が期待できます。

平成21年（2009）11月には南海本線の上り仮線（難波方面）設置が完了しました。



高石駅完成予想図



羽衣駅完成予想図

## 市民とともに進める 芦田川ふるさと川の整備事業

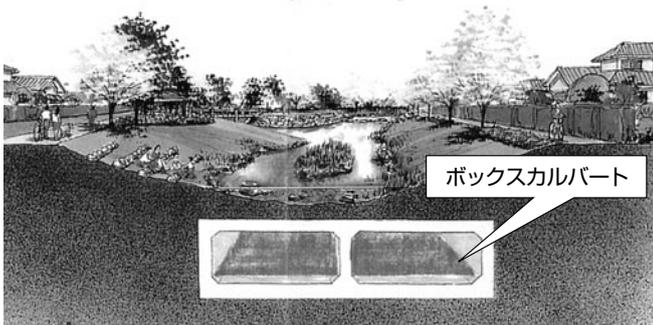
芦田川は和泉市信太山に源を発し、本市の市街地を経て大阪湾に流入する二級河川です。

平成9年度（1997）に高石市東羽衣地先から高石市西取石地先までの約1・4キロメートルが国土交通省のふるさと川の整備河川に指定され、現在、その一部区域（0・5キロメートル）について整備を推進しています。

この事業では、浸水対策のみならず、水と緑にあふれた潤いある親水空間の創造を進めています。



市民委員によるワークショップ



豪雨などによる浸水被害を解決するため、地下にボックスカルバートを設置する工事が行われています

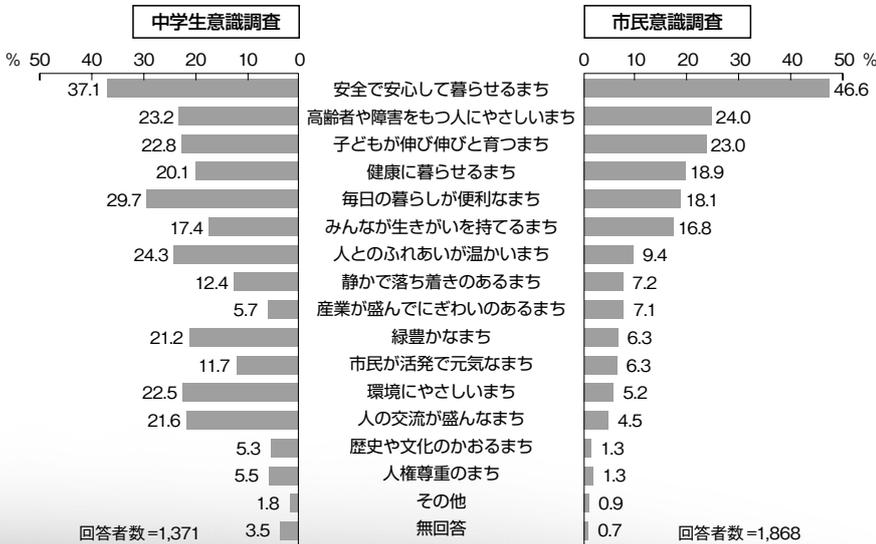
# 第4次高石市総合計画の策定にあたって

本市では、「人間都市・高石」を都市目標に高石市総合計画（目標年次を平成2年）及び第2次高石市総合計画（目標年次を平成12年）、第3次高石市総合計画（現計画：目標年次を平成22年）を策定し、社会変化に対応しつつ、コンパクトな都市の利点を活かし、総合的かつ計画的なまちづくりの推進に努めてきました。

そこで、これまでの成果を踏まえつつ、将来的な視点と展望に立った新たなまちづくりの方向性と、本市の進むべき目標を定めるため、第4次高石市総合計画（目標年次を平成32年）を策定しようとするものです。

## 第4次高石市総合計画の策定に向け実施した「中学生意識調査」「市民意識調査」

10年後、高石市が魅力ある街であるためには、どのような街をめざすべきだと考えますか。（2つまで）



【総合計画】  
高石市総合計画は、高石市のすべての計画の基本となるもので、市が実施いたします福祉・都市基盤整備・環境保全・産業振興・教育などの様々な分野にわたる事務事業は、この計画に沿って行われることとなります。

## 市民憲章

(昭和46年11月22日制定)

わたくしたちは、高石市民であることに誇りと責任をもち、みんなのしあわせをねがい、住みよい高石市をきずくため、この憲章を定めます。

- 一、美しいまちをつくりましょう
- 一、ゆたかな文化をそだてましょう
- 一、お互いに助け合いましょう
- 一、住みよい社会をきずきましょう
- 一、未来に希望をもちましょう

## 都市宣言

- 昭和40年3月12日 暴力排除都市宣言
- 昭和47年5月23日 交通安全都市宣言
- 昭和59年9月25日 非核平和都市宣言
- 平成8年4月3日 福祉都市宣言

## 市歌

(昭和46年11月22日制定)

高石市歌

作詞 竹内幸子  
補詞 小野十三郎  
作曲 野口源次郎

明るく元気に

① め さ む れ ー ば め さ む れ ー ば あ  
② と き た て ー ぞ と き た て ー ぞ ま  
③ か ぜ わ た ー る か ぜ わ た ー る せ

か お さ す かつら ぎのそ ー ら こん  
つ か ぜ ほ なおき わか ー に せい  
ん ぼく の のづら にたて ー ぼ まん

(poco)

ごうのくも すでに あかる し い  
さんのおと なみの ひびき と ち  
ようのうた ひびに あたら し き

き ー ふ が く てあし をの び し ひ  
を ー み が き きぼ う をむ わ に ひ  
ず ー き あ て おん か のあ や こ ひ

と び と よ そ と に で よ う ひ  
と び と よ と も に 輝 け う ひ  
と び と よ ゆ め を も と う ひ

(3拍11 allarg.)

と び と よ て を つ な ど う  
と び と よ た す け あ お う  
と び と よ ほ し を み よ う



- 1 眼さむれば  
茜(あかね)さす 葛城の空  
金剛の雲 すでに明るし  
息深く 手足をのばし  
ひとびとよ 外に出よう  
ひとびとよ 手をつなごう
- 2 時たてど  
松風は なおさわやかに  
生産の音 波のひびきと  
智をみがき 希望を胸に  
ひとびとよ 共に行こう  
ひとびとよ 助け合おう
- 3 風渡る  
泉北の 野づらに立てば  
万葉のうた 日々に新らし  
きずき上ぐ 文化の都  
ひとびとよ 夢を持とう  
ひとびとよ 星を見よう

## 姉妹都市

# 米国・ロミタ市

1981年（昭和56年）10月、アメリカ合衆国カリフォルニア州のロミタ市と姉妹都市提携を結びました。ロミタ市はロサンゼルス市から南へ約40キロメートルに位置する人口約2万人、面積3.5平方キロメートルの街です。高石市姉妹都市協会を通じて、年1回の交換留学や泉州国際市民マラソンヘランナーを招聘するなど、海を越えた交流が育まれています。



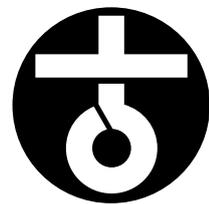
## 友好都市

# 和歌山県有田川町

1994年（平成6年）7月から友好都市であった清水町が近隣の町と合併し、有田川町が誕生したことにより、2006年（平成18年）11月に新たな友好都市交流提携を結びました。有田川町は和歌山県のほぼ中央に位置し、美しい森林と溪谷が展開する自然豊かな町です。また、旧清水町域には本市の「ふるさと村キャンプ場」があり、夏休みには多くの市民が訪れています。



## 市章



高石市の「高」を図案化。台の円は、市民の幸福と協和を意味し、その上に高石市が高度に発展することを象徴しています。一般公募により昭和41年12月20日制定。

## 市の木 松



松の緑は人の心にやすらぎと親しみさを与え、高石市がいつまでもこの緑におおわれることを念願し、その象徴として市の木に選定しました（昭和46年11月22日制定）。

## 市の花 菊



寄り添った花弁は市民が力を合わせ住みよいまちを建設する姿をあらわし、そのさわやかな香りは文化の美りをおもわせ、美しいまちと明日への希望を象徴するがごとく気品に満ちあふれています。この花を発展途上にあるわが高石市の市民の誇りと願いに一致するものとして、市の花に選定しました（昭和46年11月22日制定）。

## 昭和41年（1966）11月1日 市制施行

### 平成11年（1999）

- 2月 総合ライフケアセンター1期工事完成
- 10月 複合「コミュニティセンター」とろしプラザ」完成
- 11月 市営浜墓地完成

### 平成12年（2000）

- 5月 第3次総合計画基本構想を策定
- 8月 行財政改革実施計画を策定

### 平成13年（2001）

- 3月 芦田川ふるさと広場完成
- 4月 高石市ホームページ開設

### 平成14年（2002）

- 4月 堺市・高石市合併問題研究協議会が発足
- 11月 合併問題に関する住民説明会が始まる
- 12月 川淵三郎さん（JFAキャプテン：当時）が名誉市民に

### 平成15年（2003）

- 2月 総合ライフケアセンターに診療センター、母子健康センターが完成
- 3月 高石駅東B地区再開発ビル「アプラたかいし」完成
- 4月 阪口伸六市長が初当選、堺市との合併を問う住民投票は「合併に反対」が多数を占める
- 12月 第一次高石市財政健全化計画案を策定

### 平成16年（2004）

- 1月 市民参加の行財政改革をめざして、市民タウンミーティング開催
- 8月 道路・公園等の管理にアダプト・プログラムを導入
- 10月 第二次高石市財政健全化計画案を策定

### 平成17年（2005）

- 3月 高石市次世代育成支援行動計画を策定
- 11月 教育委員会に青色防犯パトロール隊が発足



高石市立老人保健施設



アプラたかいし



多目的国際ターミナル完成

# 歴代市長



中山末吉

(昭和41年11月1日～昭和42年1月)



浅野政雄

(昭和42年2月～平成3年2月)



寺田為三

(平成3年2月～平成15年4月)



阪口伸六

(平成15年4月～)

## 平成18年 (2006)

- 2月 第三次高石市財政健全化計画案を策定
- 2月 高石市消防団発定
- 4月 南高砂に5万トン級船舶が利用可能な多目的国際ターミナルが完成
- 11月 市制施行40周年を迎える
- 11月 和歌山県有田川町と友好都市交流提携調印

## 平成19年 (2007)

- 1月 粗大ゴミの有料化スタート
- 4月 福祉バス2台体制で運行を開始
- 6月 地域経済の活性化を図る、高石市企業立地等促進条例制定
- 8月 高石市学校教育施設耐震化計画を策定

## 平成20年 (2008)

- 2月 第四次高石市財政健全化計画案を策定
- 8月 第二次高石市学校教育施設耐震化計画を策定
- 11月 津波を想定した総合避難訓練を実施

## 平成21年 (2009)

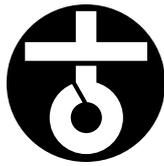
- 6月 たかいしスクール・ニューデール・第三次高石市学校教育施設耐震化計画を策定
- 10月 認定こども園導入を決定



高石市消防団



福祉バス「らくらく号」



高石市政策推進部秘書課

〒592-8585 大阪府高石市加茂4丁目1番1号

TEL 072-265-1001 FAX 072-263-6116

<http://www.city.takaishi.lg.jp/>